

造血器・リンパ系腫瘍の WHO 分類 第5版

2001年に出版された「造血器およびリンパ球系腫瘍のWHO分類 第3版」は、造血器・リンパ球系腫瘍分類のstandardとなり、広く普及しました。2008年に大改訂があり第4版が、さらに、2017年にその一部が改訂され、改訂第4版が出版されました。その後も遺伝子異常を中心に新知見は増え続け、第5版の刊行が決まり、2022年にはLeukemia誌にその概要が掲載されました。また、Webサイトではベータ版(有料)が公表されていますが、書籍はまだ出版されていません。

臨床検査担当者・従事者、特に血液学検査の担当者にとって、造血器・リンパ球系腫瘍のWHO分類は避けて通ることのできないものになっています。第5版ではWHO分類が大きく変化していますが、そのポイントについて、Leukemia誌に掲載された内容を中心に解説していただきました。本特集を通じて、変化を続けるWHO分類をcatchupしましょう。

佐藤尚武

(順天堂大学医学部臨床検査医学)